HEASHIO TOPICS

幸運な人もいます。年賀はがき一等賞に村山さん

（焼鮒団地）

年賀はがき一等賞の割合って知っていますか。百万枚に三枚なんです。

今年も大野町郵便局管内から一等当選が出ました。焼鮒団地の村山さんご一家。賞品は電子レンジです。

二月七日(火)に大野町郵便局に受取りにきた村山ヒサ子さんは「ほんとにうれしい。最初はびっくりしましたね。今までは切手ぐらいしか当たったことがないもんですから。」

子供が書き損じた年賀状がその幸運の一枚。郵便局長の関駿彦さんも「書き損じが当たるというのは、わたしは初めて聞きました。ほんとに運がいいんですね」と。

大野町郵便局では今年約六十万枚配達したそうです。確率からいくとあと一枚ありそうです。あなたの年賀状もう一度見てみませんか。景品の引換えは七月十九日まで。

なお、郵政省では引き換えされず残った景品は、各種の施設に寄付するそうです。

●年賀はがき当せん番号

1等	電子レンジ	A 組	869616		
		AB組共通	182626		
			476024		
			528616		
2等	折りたたみ式自転車	A 組	下5けた 18845		
		AB組共通	下5けた 29663		
3等	手紙セット	AB組共通	下3けた 075	下3けた 269	
4等	切手シート	AB組共通	下2けた 27	下2けた 67	下2けた 92

大雪の中、さいの神、心も燃えます。

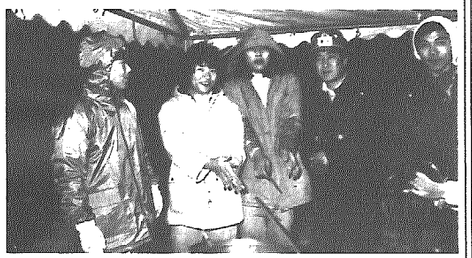
大野五区の青年団と子供会では、昨年に引き続き今年もさいの神を一月十五日、交通公園で行いました。

当日はものすごい大雪。それでも、テントを立て子供たちはもちつきをやったのです。

参加者は八十人ほど。用意したするめは百枚近く売り切れてしまいました。おしるこも用意され、大好評でした。

さいの神の材料は、竹は白根市の農家、木材は廃村や町内の村木屋さんから頂いたそうです。雪にも負けずがんばりました。

「車って怖いんだね」保育園で交通安全映画を上映。



町では二月下旬、町内七つの保育園で交通安全教育映画を上映しました。

目的はもちろん子供たちを交通事故から守るためです。約十分の映画が三本、わかりやすいようにすべてアニメーションです。

子供たちは—

「とってもおもしろかった。車はこわいものだというのがわかった」

「これから道で遊ばないように気をつけよう」

「小学校に行くとバスでないので、歩くときに気をつけたいと思います」

—などなど。

ドライバーの皆さん、子供を見たら〝危険〟と思ってください。子供の行動は大人と違い予知できません。わが子と思って安全運転を。

県広報コンクールで広報くろさきが入選。今後もよろしくお願いします。

一月下旬に行われた県広報コンクールで、広報くろさきが、広報紙（町村）の部で入選二席、広報写真（自由）の部で入選一席となりました。

これも皆さまのご協力、ご理解の賜であると思っております。

今後もこれを契機にいっそう皆さんと町のパイプ役として努力していきます。これからもよろしくお願いします。

役場企画課広報係

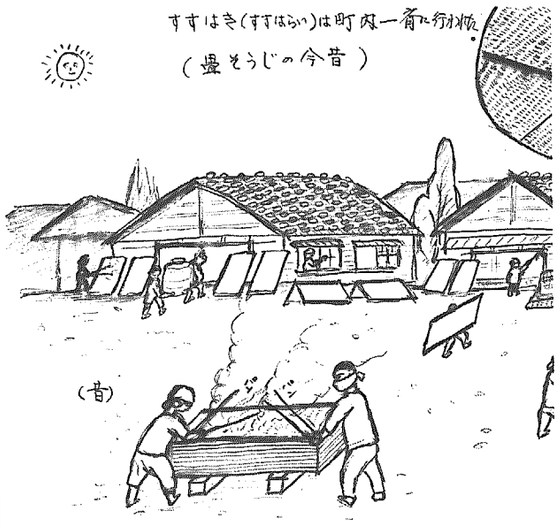
黒埼町の今昔

文・写真 高田不朽

第34回

風習行事……その三

すすはきは町内いっせいに行われ、終わると証明書が玄関に貼られた。



すすはき（すすはらい）

七月に入って梅雨もあけ、土用のころになると町内一斉に「すすはき」をした。日時は天気の良い日を選んで自治会長がふれを回した。

当時（昭和初め）の衛生法によって行われ、入梅でしめった畳や夜具類を表に出して天日（てんぴ）に乾かした。畳もはぎ床下ののみを除去するため石灰をまいた。一般家庭の病害虫の予防や退治はこの程度の方法しかなかった。

作業は朝から始まり、午後三時ごろには、午前中家の軒下に立てておいた畳を細い竹の棒でパタッパタッとたたいた。こうして畳や家具を家に運び入れて大掃除が終わると自治会長が、終了したことを証明する紙を玄関の戸に貼った。（佐藤サクさん（新町）の話）

梅干しづけ

七月二十日ごろ（土用入りのころ）になると梅干しづけをした。梅干しの作り方は次のようである。

土用前に漬けておいた梅を土用入りのころ、かめから取り出しざるに入れて、日が照ったら外へ出して乾かし、夜は家に入れる。これを三日くり返し、最後にうしの晩に夜ざらしにすると、体に良い梅干ができるといわれている。

ことわざで「三日三晩の土用干し」といって今に伝えられている。昔は梅干しは大切な食べ物で、大正の教科書にはこう記されている。

梅干しの唄

二月三月花盛り
うぐいす鳴いて春の日の
楽しいときも夢のうち
五月六月実がなれば
枝からふるい落とされて
何升　何合はかり売り
もとよりすっぱいこの体
塩につかって辛くなり
しそに染まって赤くなり
三日三晩の土用干し
おもえばつらいことばかり
それも世のため人のため
しわが寄っても若い気で
小さいまみ等と仲間入り
運動会にもついて行く
ましていくさのそのときは
なくてはならないこの私

お盆の墓参り

八月十三日夕方、お墓参りの盆としてにぎわう。一年に一回親類縁者一同が仏様を偲（しの）び敬い尊ぶ日である。

お墓は二、三日前にきれいに掃除しておき、親類や遠くに働きに行っている人も帰ってきて墓参りに列席した。

夜食には仏様に蓮の葉の上にごはんをあげ、柳ばしを添えてお詣りした。

この由来は—。

お釈迦様の弟子でも神通力が第一といわれた大日蓮尊者が亡くなった母を地獄から極楽へ引き上げようとしたときに、千人の坊さんを招きごはんを上げるにも間に合わずお膳も足りなかった。

そこで、柳の木ではしを作り、蓮の葉をお膳代わりにしたのである。この供徳で母を極楽の世界へ移すことができた。

一般的にこの慣習はなくなったが、日蓮宗では今も続いている。

盆踊り

十四、十五日はお盆休みでお墓参りと親戚の仏詣りをした。十五、十六日は大野の場合、諏訪神社で盆踊りが開かれた。

大野の盆踊りの歌

(1)盆だてがんね、なすの皮のぞうせーだあ。あんまりてっこうもりでー　鼻のてっこつ焼いたとさー。

(2)さつま絣（がすり）と新田町若い衆、色は黒くとも人が好く

(3)新潟砂山米なら良かろー
大野の船頭さんに積ませたやー。

なお、昔からどうしたわけか、お釈迦様の境内であまり踊りが立たず、町中（まちなか）の道路によい踊りが立ったと言われている。

お盆の掛取り（盆勘定）

八月十三日は、町の商人にとって盆勘定の時期である。近在農家への売掛金の回収は盆とせきの二回しかなかった。

正月（二月）からの半年分を取りに行くので、商店では大忙しであった。新町のSさん（現在七十歳）は、家の人の手伝いで十歳のとき掛取りに行ったという。

諏訪神社の秋祭り

八月三十一日が宵宮で、九月一日が祭礼の日である。昔は本祭りといって秋祭りが盛大に行われることが多かった。本祭りになると各町内のほとんどが若者にせがまれて山車を出した。

ある年、町の重立ち衆（しゅう）が町の景気を考え、その年の本祭りを見合わせにしようとしていたところ、若者たちが勝手にみこしをかつぎ出し、とうとう本祭りが行われたなどということもある。

境内や神社ではいろいろな興業がうたれた。大正の初めころ「からくり」という見せ物がきたこともある。

からくりは今の公民館のあたりに小屋がけされて行われた。だしものは「佐倉そう五郎」や「ほととぎす」がよく上演された。ほととぎすは武夫と浪子の悲恋物語で、観客はついほろりとさせられた。

このほかにも、「祭文かたり」（昔の浪曲の始まり）や「ちょんがり」（仏教から出た講談のようなもの）などが興業した。こむ僧が三味線を持った妾と本妻を連れてきたこともある。

昭和の初めごろには、境内にオートバイサーカスもきた。丸く高いかこいの内側を、オートバイに乗って、ものすごいスピードで爆音高く走り、横になったまま、かこいの上まで登って、上に見物しているわたしたちをびっくりさせた。